

1 活断層の活動区間を正確に把握するための詳細位置・形状等の調査及び断層活動履歴や平均変位速度の解明のための調査研究



奈良市八島町における地形面の編年のためのピット掘削調査

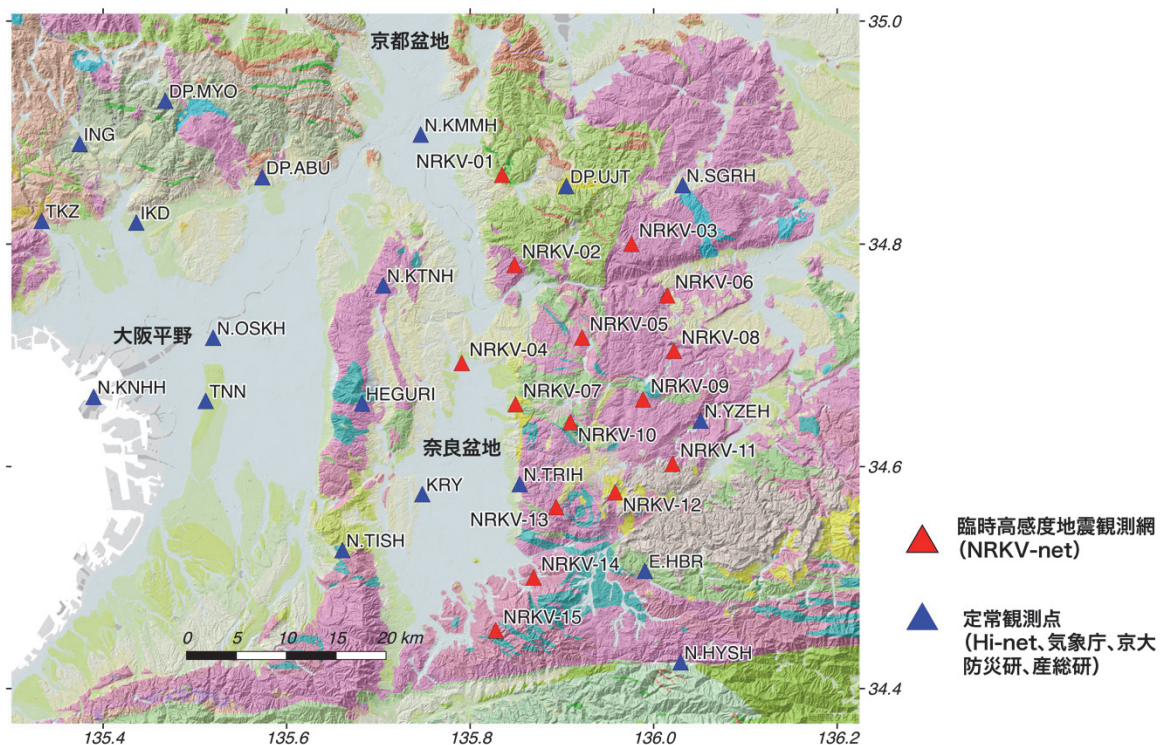
断層変位を受けた地形面の編年のために人力で深さ約1mのピットを掘削し、放射性炭素年代測定試料を採取した。



京都府木津川市神童子における逆断層露頭

北に向かって撮影。東側の花崗岩が西側の大阪層群最下部層に衝上する。

2 断層帯周辺の地殻活動の現状把握の高度化に関する調査研究



奈良盆地東縁断層帯周辺に構築した臨時高感度地震観測網（NRKV-net）の観測点分布
観測データは当該断層帯周辺で発生する微小地震の発震機構解析に利用する。



臨時高感度地震観測点（NRKV-10）の遠景

畑には獣害対策が施されている。本観測網のほとんどの観測点で獣害対策が必要であった。



微動アレイ観測風景（桜井測線 NRS-1 の半径 60 m アレイ）

写真奥は景行天皇陵。段丘では直交する道路がない場所も多く巻尺での計測が難しいため、観測点位置決定には GNSS やスマートフォンの位置情報を利用した。



微動アレイ観測風景（帯解測線 NR0-3 の半径 200 m アレイ観測点）

田畑に微動計を置く場合には石板を敷いて安定性を高めた。

3 断層帯周辺における強震動予測の高度化に関する研究



P波反射法地震探査加振風景（巨椋池測線）

車両下部のベースプレート（重量 800 kg）が振動することで地面を加振する。



極小微動アレイ観測風景（木津川市、N018 地点）

4 台の地震計（オレンジ色の機械）で同時に微動を観測し、位相速度を検出する。背後にあるグレーのボックスは京都府が設置・管理している計測震度計。

4 地域連携・地域の内在ハザード情報共有



令和元年度「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」地域勉強会
奈良県及び京都府内の自治体、ライフライン事業者等から 77 名が参加した。



令和元年度「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」地域勉強会
第2部パネルディスカッションの開催風景。参加者との活発かつ率直なやりとりが行われた。